

北海道士幌高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 「志」プロジェクトを活用した、生徒の個々の目的意識の向上を図る。 (2) プロジェクト学習を中核としたPDCAサイクルを意識した活動	『志』プロジェクトにおける外部との連携により探究的な学びが深まったとともに、夢や希望を持つ生徒の割合が全道平均よりも高くなっており、『志』プロジェクトの意義を実感し目的意識を向上させることができた。	生徒が主体的に学ぶことのできる体制をつくり、プロジェクト学習や総合的な探究の時間をどのように展開していくかを検証する。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 普通教科との連携による外国語学習の充実（ALTの活用） (2) GAPとHACCPの実践と発信 (3) アメリカ合衆国やキルギス共和国との生徒・教員間の交流	海外文化交流事業によりALTの語学指導のもと10名の生徒がアメリカで文化交流を実施したほか、キルギス共和国との技術支援交流では日本への生徒教員の受入と本校生徒2名の派遣ができた。	第三者認証の継続を検討し、グローバル教育について教育課程の中にどう位置付け、国際交流へと発展させるかを検討する。	5
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 地域特産物を活用した栽培方法の検討 (2) IoTを活用した農作業の見える化、効率化の検討	ドローン、トラクタの自動操縦システムなどの導入が進み、教育活動の中で運用できるようになった。外部との連携が昨年以上に充実し新しい農業技術を積極的に活用することができている。	新技術の導入、活用を推進していく中で、指導者の資質向上をどのように図っていくかを検討する。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 地域食材を用いた加工食品の開発とマーケティング学習 (2) HACCP認証取得後の衛生管理手法の実践 (3) 衛生管理機器の活用	各専攻班によるプロジェクト学習や農業クラブ活動の取組により、生徒が主体的に地域農業や産業の課題解決に向けて取り組むことができています。	外部との連携を図り生徒の主体的な学びの推進を図るとともに、安全や衛生管理など基礎基本の定着を図る。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 農業教科内での環境に配慮した教育の実践 (2) 課題研究「環境専攻班」によるプロジェクト活動の推進	GGAP、有機JAS、北海道HACCPなどの認証を継続した。また、環境専攻班による防風林保全などの研究継続により地域の環境保全に寄与する態度を育成し、地球環境を守る意識の醸成を図れた。	第三者認証は継続していくとともに、地域の環境保全に係る取組をより発展させ情報発信力を高める。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) ふるさと納税を利用した地域振興 (2) 新たな食材の開発・試作 (3) 地域の観光資源の発掘	士幌町と連携している「ふるさと納税返礼品」としてのアイスクリームの製造に加え、「どら焼き」を製造するなど、地域振興に寄与し、その成果を生徒が実感できるようになった。	ふるさと納税返礼品の他、積極的に外部と連携した商品の開発するとともに地域の魅力を発見し、郷土愛を深める取組とする。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) 地域の魅力を発信する取組の実践 (2) ICTの農業分野への効果的な活用を探究	一人一台端末によるICTを活用した農業教育に取り組むことができた。公式SNS（YouTube、Instagram、Facebook）を活用し、情報発信することで地域振興に貢献することができている。	生徒個々が主体性をもってICTを活用した農業分野への利用を考えさせるとともに、情報社会に参画する態度について適切に学ぶ。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 地域の防災を、避難訓練等を通じて防災意識を育む。	防災訓練を実施して、災害時準拠点として登録されている道の駅の活用方法を学習した。	今後も引き続き訓練や日常的な啓発により、生徒一人ひとりの防災意識を育み、災害時での適切な行動がとれる態度の育成。	4